

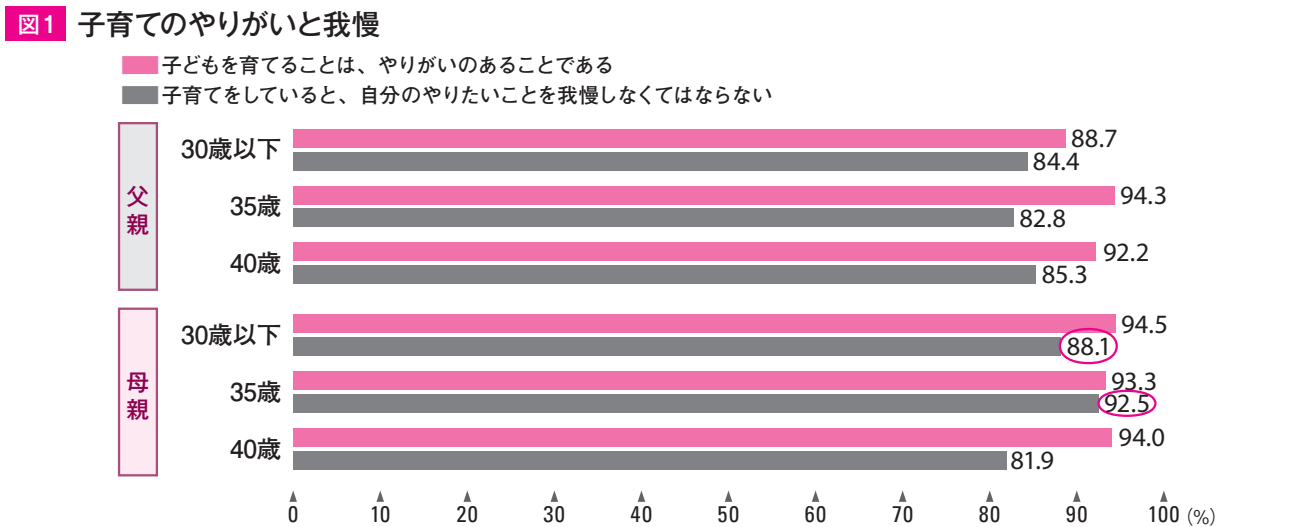
# 30歳以下・35歳・40歳保護者を比較 世代間の子育て意識の違い

ベネッセ教育総合研究所は、2013年3月に20～40歳の男女を対象に、生活技術の実態や将来の家庭像を明らかにすることを目的にアンケート調査を実施しました。この調査の中から、今回は、特に0～6歳の子どもをもつ保護者にしぼり、子育て意識の違いに関するデータをご紹介します。家庭への支援を考える材料のひとつとして、ぜひご活用ください。

引用・転載時のお願い 本調査の結果を引用される際には、調査名称を記載してください（例：ベネッセ教育総合研究所「ライフスタイルに関する調査（2013）」）。

## 35歳以下の母親は「子育て中はやりたいことを我慢しなくてはならない」と答える割合が高い

Q あなたは次のようなことについて、どのように思いますか。それぞれ最もあてはまるものをお選びください。



注1) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の% 注2) 0～6歳の子どもをもつ保護者を対象とした。

研究員解説

子育てについての考えを聞いたものが図1です。「子どもを育てることは、やりがいのあることである」では、父親・母親ともにどの年齢でも「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した人が9割前後であり、総じて高い数値になっています。また「子育てをしていると、自分のやりたいことを我慢しなくてはならない」でも、8～9割が「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答しています。多くの父親・母親が、子育てにやりがいを見いだしている一方で、我慢をしいられるものでもと感じている

るのです。一見矛盾するようですが、子育てはやりがいも我慢も両方の側面をもっているものであることを示した結果と言えると思います。30歳以下と35歳の母親では「子育てをしていると、自分のやりたいことを我慢しなくてはならない」が40歳の母親に比べて高くなっています。2、3歳児が多くを占めている世代で（図表略）、手のかかる時期であることも影響していると思われる。

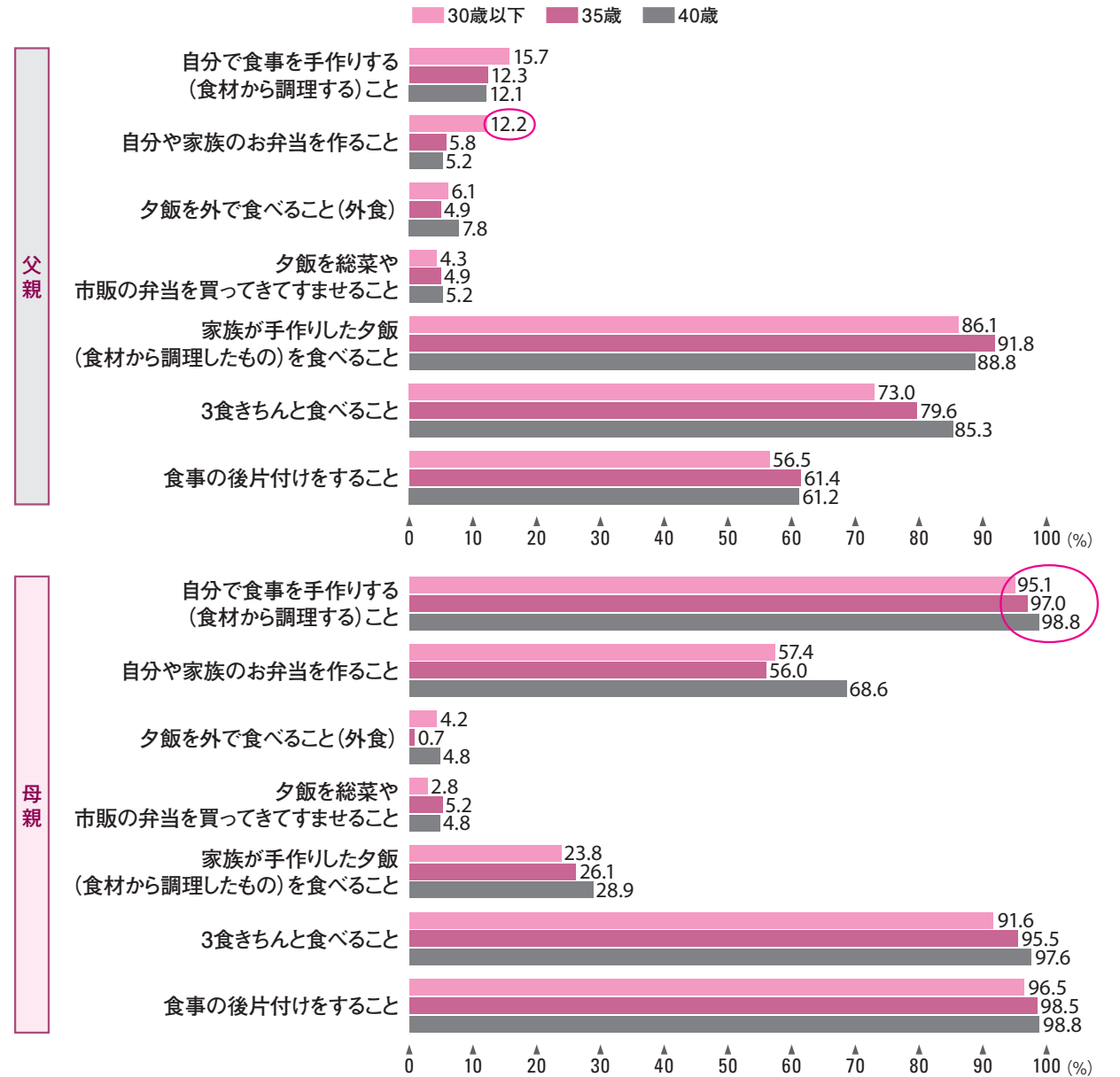


高岡純子研究員◎ベネッセ教育総合研究所主任研究員。妊娠・出産や子育てなど就学前の家庭を対象とする調査研究に携わる。

## 世代に関わらず、9割以上の母親が自分で食事を手作りしている

Q あなたご自身は、ふだんの生活の中で次のことをどれくらいしていますか。それぞれについて頻度をお答えください。

図2 ふだんの生活の様子（食事編）



注1) 「ほぼ毎日」+「週に数回」の%

研究員解説

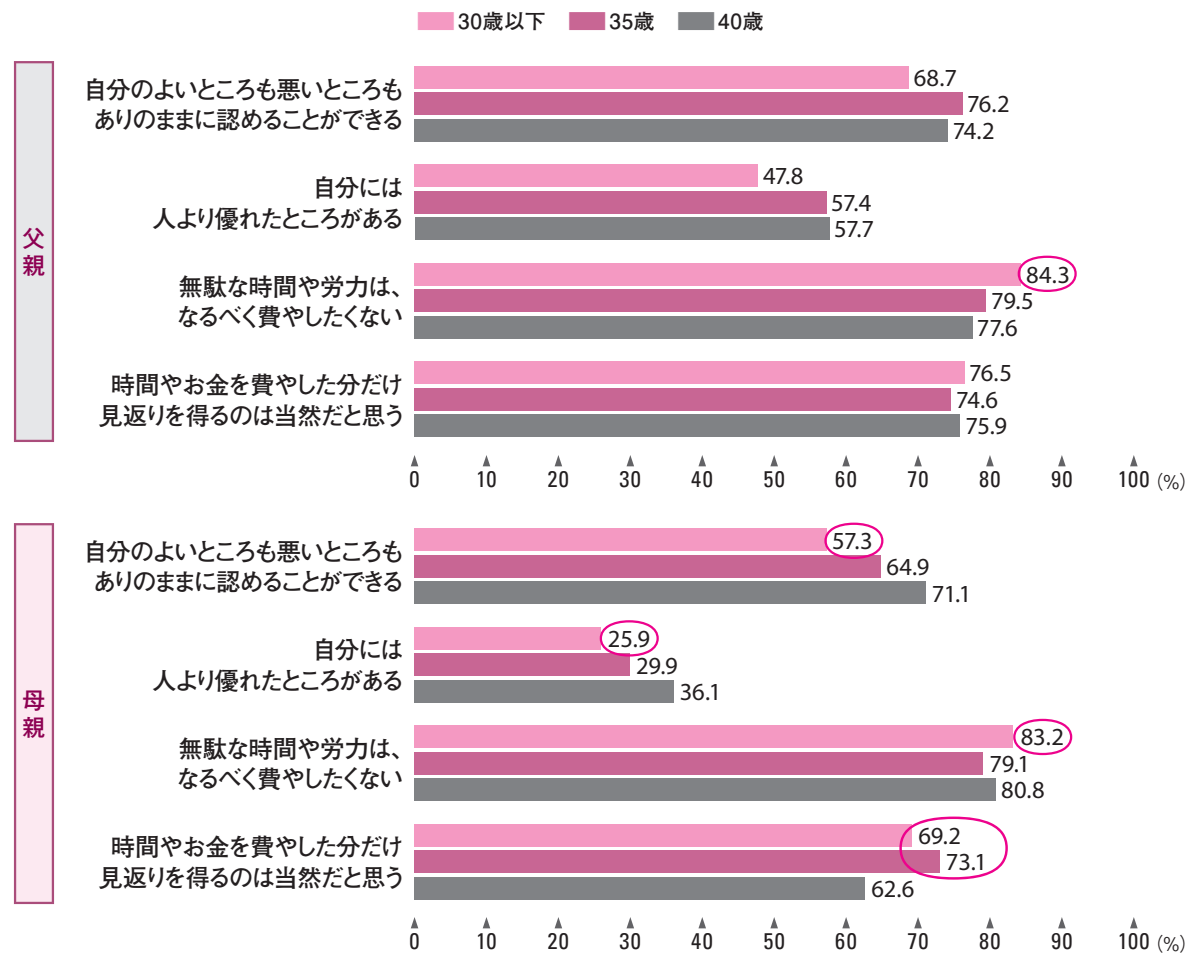
ふだんの食事の様子を聞いたものが図2です。父親・母親ともに「3食きちんと食べること」「食事の後片付けをすること」は半数～9割以上の人が「ほぼ毎日」「週に数回」と回答しています。母親では「自分で食事を手作りする（食材から調理すること）」ではどの年代でも95%を超えています。夕飯を外で食べる、また夕飯を総菜や市販の弁当ですませることはともに1割以下となっており、さまざまな食品がそ

ろ多様化する中でも、食材から調理をしている母親が多い様子が見えます。父親で最も多いのは「家族が手作りした夕飯を食べること」（どの年代でも9割前後）で、自宅で夕飯をとる父親が多い様子が見えます。自分や家族のお弁当作りは、母親では5～6割が行っています。父親では、30歳以下が最も多く、約10人にひとりがほぼ毎日または週に数回の頻度で弁当を作っている様子が見えます。

## 若い年代ほど、かけた時間やお金に見合う結果をより求める傾向がある

**Q** あなたには、次のことがどれくらいあてはまりますか。それぞれ最もあてはまるものをお選びください。

図3 価値観



注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%

### 研究員解説

さまざまな価値観について聞いたものが図3です。自身のとらえ方については、「自分のよいところ悪いところありのままに認めることができる」では、父親では7割前後が「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答していますが、母親では30歳以下で57.3%と最も低い数値となりました。「自分には人より優れたところがある」では、母親で4割以下であり、特に30歳以下では25.9%と最も低くなっています。またお金や時間に関する考え方を聞いたところ、「無駄な時間や

労力は、なるべく費やしたくない」では父親の30歳以下では84.3%、母親の30歳以下では83.2%と高い数値となりました（「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計）。また「時間やお金を費やした分だけ見返りを得るのは当然だと思う」では、父親では総じて7割、母親では30歳以下と35歳で7割前後となっています。若い年代ほど、かけた時間や労力に見合ったものを求めるという傾向が見られる結果となりました。

出典：『ライフスタイルに関する調査』（2013年）  
調査対象：20歳、25歳、30歳、35歳、40歳の男女  
有効回答数：4,131名  
調査時期：2013年3月下旬  
調査地域：全国

調査方法：インターネット調査  
調査項目：生活技術の実態、将来の家庭像  
今回ご紹介したデータのサンプル数：父親／30歳以下115名、35歳122名、40歳116名 母親／30歳以下143名、35歳134名、40歳83名

詳しい調査結果はこちらからご覧になれます。ぜひご利用ください。▶ <http://berd.benesse.jp/>

調査データを踏まえ、園ができる支援について考える

## 保護者の課題、ニーズを拾い上げて 保護者に「親としての自信」を与える



今回の調査は、食生活や価値観など、子育てに関する意識を広く聞きました。この結果から、園ができる子育て支援はどのようなものが考えられるのでしょうか。目白大学人間学部子ども学科の荒牧美佐子先生にうかがいました。

目白大学 人間学部 子ども学科専任講師

荒牧美佐子

あらまき・みさこ

専門分野は発達心理学。乳幼児をもつ母親の育児感情、園における子育て支援の効果検証、幼児期の家庭教育が子どもの発達に与える影響などについて研究を行う。

### 食に対する保護者の関心が高まっている

今回の調査で最も目を引いたのは、母親の食に対する意識です。「自分で食事を手作りする（食材から調理すること）」をふだんから行う母親はどの世代でも95%を超え、「3食きちんと食べること」もほとんどの母親が実践しているという結果が見られました（図1）。

最近、家庭における子どもたちの食生活に関心をもっていらっしゃる園の先生は少なくないと感じていました。確かに、子どもの食事の仕方や好き嫌いなど、食に関する行動から家庭生活の改善点が垣間見えることはよくあることです。

しかし、今回の調査からは、食に対して高い意識をもつ母親像が見えてきました。ここで紹介されているデータ以外でも、30歳以下の世代では「上手になりたいもの」として料理を挙げるなど、食への関心が高まっている傾向が見て取れます。保護者の高い自己評価や関心と、園の先生がとらえられている現状とのギャップについて、園内で話し合ってみていただきたいと思いました。

先生がたには、好き嫌いの克服や栄養面に配慮したメニューの紹介など、食生活をよりよくするためのアドバイスに加えて、子どもが「食べることって楽しい！」と思えるような食事の雰囲気づくりの大切さも保護者に伝えてほしいと思います。このように、今回の調査結果は、今の保護者の状況に合った子育て支援を考えるひとつのヒントになるのではないのでしょうか。

### 保護者の自尊感情の低さが園への期待を大きくしている

もうひとつ気になったのは、「自分には人より優れたところがある」と考えている母親が、特に若い世代は

ど少ないことです（図3）。最近、若い保護者の中には園に対して保育をサービスととらえるケースがあるとされています。確かに今回の調査でも、費やした時間やお金に見合った見返りを求める傾向は見て取れます。しかしもしかすると、園に対するそうした思いの背景には「サービスを受けたい」という気持ちからだけでなく、自分に対する自信のなさ、子育てに対する不安もあるのではないかと感じました。

近年、地域との関わりが少なくなり、子育てについて相談できる人が園の先生しかいないという保護者も珍しくありません。不安を抱える保護者がこれまで以上に、園のサポートを期待することは想像できますし、園が「一緒に子どもを育てましょう」という姿勢を伝えていくことは、ますます重要だと思います。

保護者と語り合う中でそれぞれのニーズを拾い上げ、少しずつ「親」として自信をもてるような働きかけを行っていただきたいと思います。

